

パイプラインの

存続へ署名提出

芦屋市ごみ収集で住民

芦屋市南部の臨海地域で
ごみを焼却炉へ自動運搬す
るパイプライン施設につい
て、住民らでつくる「ゴミ
収集パイプライン利用者の
会」が20日、山中健市長と
面談し、存続を求める約1
万1600人分の署名を提
出した。
市によると、廃棄物運搬

用パイプライン施設は19
79年に稼働した。地下の
鉄管を通して、空気流でご
みを焼却炉に集める。使え
るのは市内約16%にあたる
約7150世帯。市は高額
な維持費などを理由に、廃
止を含めて今後の方針を検
討している。

利用者の会の山口能成委
員長は面談後の会見で、
「コストがかさむことを予
想できなかったのは市のミ

ス。代償を住民に払わせる
のか」と話した。
山中市長は「今後、住民
の代表の方との話し合いを
進めていく」とコメントし
た。
(森田貴之)

ごみパイプライン施設

住民ら存続を求め

芦屋市に署名提出

芦屋市が一部地域で地下
のパイプラインを通して、
ごみを集める「ごみパイ
プライン施設」の廃止を検討
していることを受けて、地
元住民らでつくる「ゴミ収
集パイプライン利用者の
会」が20日、存続を求める
署名と陳情書を山中健市長
に提出した。

市によると、投入口に入
れたごみが空気の圧力で地

11月12日(2016年)

下のパイプラインを経てご
み処理センターに送られる
システム。収集車で回収す
るよりコスト高などとし
て、市が廃止を含めて今後
の方針を検討している。
住民らはこの日、約1万
1700人分の署名を山中
市長に提出し、「住民と真
摯に話し合ってほしい」と
要望。山中市長は話し合い
に応じる姿勢を見せた。

パイプライン存続 住民らが署名提出

芦屋市長へ

芦屋市が廃止を検討

している「ゴミ収集パイ
プライン」の存続を
求める住民らが20日、
山中健市長に市内1
万1200人分の署名

を提出した。住民らは
「お互いに廃止や存
続のみを前提とせず、
コストを減らす運用方
法なども含めて市と話
し合いたい」としてい
る。

パイプラインは市南
部の臨海地域で導入さ
れている。地下に直径
約50センチの鉄の管を巡ら
せて、マンション内や
地上の投入口からごみ
を投入すると、強力な
空気流で処理施設に吸
引される仕組み。芦屋
市では1979年から
導入され、現在は市の
人口の16%に当たる約
7200世帯が利用し
ている。近年は施設の
老朽化に加え、ごみの
減量化が進み収集車での
回収よりも大幅にコ
ストがかかるとして、
市は廃止を検討してい
る。

山中健市長は「住民
の代表との話し合いを
進めたい」とコメント
した。

【田辺佑介】

毎日 2016.07.21